

おわりに

2018（平成 30）年度は、第三期中期目標期間（平成 28 年度～平成 33 年度）の前半 3 ヶ年の最終年を迎え、「神戸大学ビジョン」（通称：武田ビジョン）に則った大学機能強化の推進並びに改善・変革の意識が部局構成員の隅々に染み渡ったと考えられる。また、2013（平成 25）年度の学部改組及び 2017（平成 29）年度の研究科改編による BM 一貫思想に基づく教育課程を経た博士課程前期課程修了生を輩出した。

このような状況の中で 2016（平成 28）年度末以降、戦略企画本部の下に置かれた自然科学系新学部等設置準備WGにおいて、2021（令和 3）年度の設置を目指した新学部に関する議論が重ねられてきたが、2018（平成 30）年度末時点で「海洋系新学部：海洋立国を牽引するグローバルリーダーと多様な海洋人材の育成」を基本構想とする方針が確認された。「海洋系新学部」とされている新学部の名称は、早急に特定した上で、2019（平成 31）年度の早い段階で新学部の概要を公表する方針が確認された。

設置準備WGは「海洋系新学部を新たに設置し、海事科学部は発展的に解消する」とされているが、海事科学部の登録船舶職員養成施設の機能を継承し、これまでの海技者教育をより高度に発展させることが肝要であることも確認されている。新学部における海洋系の教育研究並びに人材輩出の機能を高めるため、四大学系（自然科学系、社会科学系、人文・人間科学系、生命・医学系）でバランスの取れた総合大学である神戸大学の強みを積極的に活かした取り組みが必要である。

なお、本報告書の執筆においては、自己点検及び自己評価の報告とデータ蓄積の機能を棲み分けることを目指し、点検・評価の機能を高めることに努めた。

【再掲】

昨年度以前の海事科学部・海事科学研究科の自己点検報告書は、海事科学部・海事科学研究科ホームページ（ホーム » 海事科学とは » 自己点検報告書・外部評価報告書）で確認が可能である。

参照 URL <https://www.maritime.kobe-u.ac.jp/maritime/evaluation.html>

また、大学全体の国立大学法人評価については、神戸大学ホームページ（ホーム » 大学について » 取組・計画 » 大学評価 » 国立大学法人評価）で確認が可能である。

参照 URL <http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/policy-kokuritu.html>

令和 2 年 2 月

神戸大学大学院海事科学研究科長

内 田 誠

